

図書館員の四季

目標は3つ足して100点満点

国立姫路病院 安部 泉美

私事で恐縮ですが、ここ一年半の間に結婚と出産が続き、身辺は急変しました。産後2ヶ月で職場復帰し、子供を院内の保育所に預けて仕事を続けています。非常勤職員という恵まれない雇用条件のもとで何度か転職を考えましたが、図書室というところに不思議な縁を感じて辞められず、今年でまる9年になりました。図書室で知り合った主人は、病院図書室の重要さをよく理解してくれており、何とか共働きが成り立っています。

気ままな独身の頃に比べると、日常生活は非常に多忙となり、さまざまな方面に気を配らなければなりません。「仕事に家事、育児と大変でしょう。」とよく人から言われます。それぞれに合格点を目指せばハードかもしれませんが、これらを足して100点にしようと肩の力を抜いて構えています。どれも大切なことなのですが、ひとつのことに縛られるより何だか得をしているような気分です。また、周囲の方々の親切な協力には遠慮なく甘えさせてもらっています。いつかは私もお返しができるればいいと思います。

当院は今、現地での建て替え工事のまったただ中で、図書室も大変不便な仮設の場所に追いやられ、利用者が減り寂しい限りです。新しい図書室が完成するのは5年後です。21世紀に突入し、図書室に求められるサービスの内容も随分変化していくことでしょう。残念ながら、主人に転勤があり私自身もその頃まで当院にいる可能性は低いのですが、日常業務の合間にほっとひと息ついては図書室の未来の姿を思い浮かべています。

図書室の引越し

社会保険神戸中央病院 浜田みちよ

私が病院図書室に勤務して今まで、図書室・書庫の引越しが4回あります。そのうち1回は、病院自体が中央区(都心部)から北区(六甲の寒冷地??)へ移転したものであり、そしてあの阪神大震災です。他は院内での増改築による移転ですが、病歴室を兼務している為、入院カルテの引越しもそれに併せていっしょに行ってきました。

これだけ引越しばかりしていると、整理整頓ができて、すっきりしそうですが、いらぬものを処分している時間もなくて(ただ後回しにしているだけなのですが)、捨てるに捨てられないゴミと化した書籍・雑誌が新しくなってきたはずの図書室の廊下の片隅に打ち捨てられたまま、手付かずになっています。

毎日通るたびに何とかしなければ、と思うのですが、移転のたびに少しばかり広がっているはずの図書室で毎年増え続ける製本雑誌の山に圧されて、行き場のない段ボールに目をつむりつつ、日常業務に追われている毎日です。

図書室紹介で美しい他の図書室の写真を見るたびに、我が部屋を見渡してため息吐息ですが、その中で毎年花びらをつけているシクラメンだけが心を和ませてくれる空間になっています。

さあがんばって図書室をきれいにするぞ!